

9 共同利用・協同観測・研究交流 (2018年)

9.1 ドームレス太陽望遠鏡 (DST)

9.1.1 共同利用

公開期間: 4月16日-7月27日、10月1日-2月8日 (計34週)

京大以外の研究者への共同利用割り当て日数: 計85日間 (約15週)

利用者 (実施順):

野澤恵 (茨城大学) 他 計6日間

「水平分光器を用いたプラージュに付随するスピキュールの観測」

萩野正興 (国立天文台) 他 計7日間

「SHABAR と SLODAR で得られるシーイングの比較」

末松芳法 (国立天文台) 他 計10日間

「太陽2次元面分光観測装置による活動領域の分光観測」

竹田洋一 (国立天文台) 他 計5日間

「多数のスペクトル線の太陽中心-周縁にわたる観測的物理量データベース構築」

當村一郎 (大阪府立大学工業高専) 他 計17日間

「ケーデンス1秒以下を目指した彩層の高速2次元分光観測」

北井礼三郎 (佛教大学) 他 計10日間

「彩層プラージュの加熱とジェット」

三浦則明 (北見工業大学) 他 計14日間

「地表層補償光学系による広視野画像改善」

大場崇義 (宇宙科学研究所) 他 計5日間

「超高周波 p-mode (100 mHz) の観測」

萩野正興 (国立天文台) 他 計5日間

「ヘリウム・イメージング・ポラリメータの開発」

花岡庸一郎 (国立天文台) 他 計6日間

「H2RG 赤外カメラによる偏光データ取得試験」

9.1.2 他大学向け観測教育実習

飛騨天文台専用道路の西日本集中豪雨被害により中止

9.1.3 国際・国内協同観測

8月21日-24日, 9月18日-21日

Hida-Hinode-IRIS campaign observation

“The role of chromospheric jets for the heating of plages” (IHOP0362)